

感染症情報 12月10日～12月16日

府下小児科199医療機関(堺市19)から

①感染性胃腸炎	1732例(堺市 141例)
②溶連菌感染症	585例(堺市 63例)
③咽頭結膜熱	215例(堺市 11例)
④手足口病	176例(堺市 11例)
⑤RSウイルス感染症	142例(堺市 10例)

府下インフルエンザ定点303医療機関(堺市29)から

インフルエンザ 1165例(堺市 66例)

感染症報告数は前週比5.5%増の3,236件であった。

報告の第1位は感染性胃腸炎で、以下溶連菌感染症、咽頭結膜熱、手足口病、RSウイルス感染症の順であった。

感染性胃腸炎は府下で前週比6%増、堺市で前週と同数であった。溶連菌感染症が府下では前週より1%減、堺市で前週86例→63例は27%減であった。咽頭結膜熱は府下で前週比11%増、堺市で6例→11例であった。手足口病が府下で前週より21%増、堺市では前週8例→今回11例であった。RSウイルス感染症が府下で前週比35%増、堺市で前週6例→10例であった。伝染性紅斑(りんご病)は府下で7%減となり、前週6位から今回7位となった。(堺市では1例)。

インフルエンザは府下で前週718例→今回1165例であった(62%増、定点当たりの報告数は2.4→3.8)で、堺市では前週48例→今回66例となった(38%増)。

麻疹の報告はなかったが、風疹が府下で前週7例→今回4例あった(堺市はなし)。